



おかやまの森整備公社 J-クレジット

森林の整備を通じ
2050カーボンニュートラルの
達成に貢献します

公益社団法人おかやまの森整備公社

公社概要



昭和40年4月、県、県中北部48市町村（市町村合併後20市町村）、岡山県森林組合連合会の出資により公的な森林整備機関として「社団法人岡山県林業公社」を設立しました。

設立以来、平成12年度まで豊かな森林資源の造成のほか、水源の涵養、県土の保全等、公益的機能の増進を図るため、分収造林事業を計画的に推進し、県内民有林の人工造林面積の15%に相当する2万5千haの人工林を造成、農山村における就労の場の確保と地域経済の振興に貢献してきました。

また、令和4年には、（一社）岡山県森林協会と合併し、持続可能な森林の管理の推進や山地災害の未然防止・気候変動など森林に関するSDGsの達成にも貢献していくこととしました。

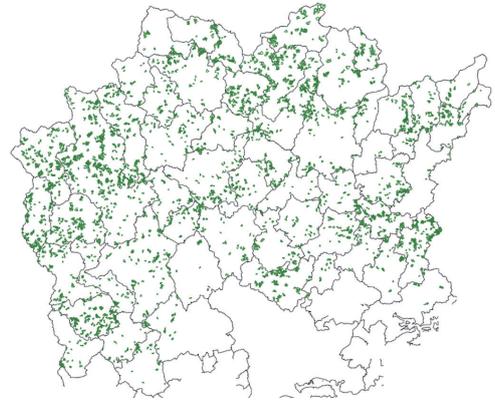
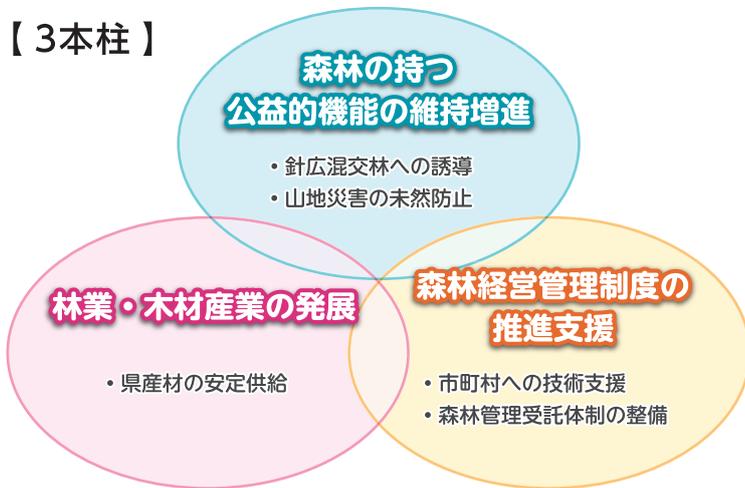
経営目標



公社造林分布図

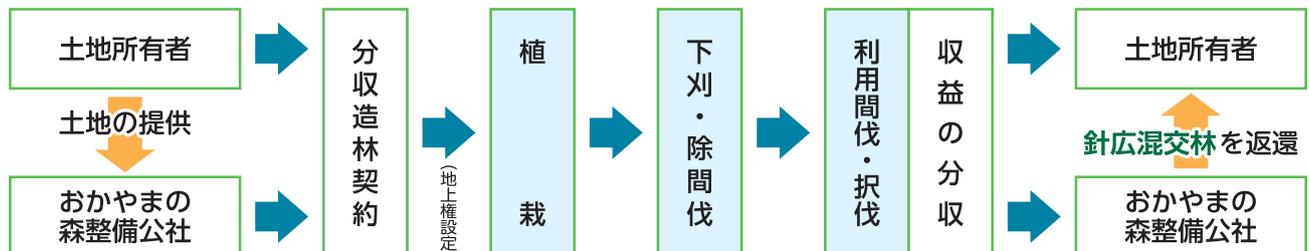


【3本柱】



昭和40年から平成12年までの36年間に、土地所有者との分収造林契約により25千haの人工造林を行っています。

分収造林事業

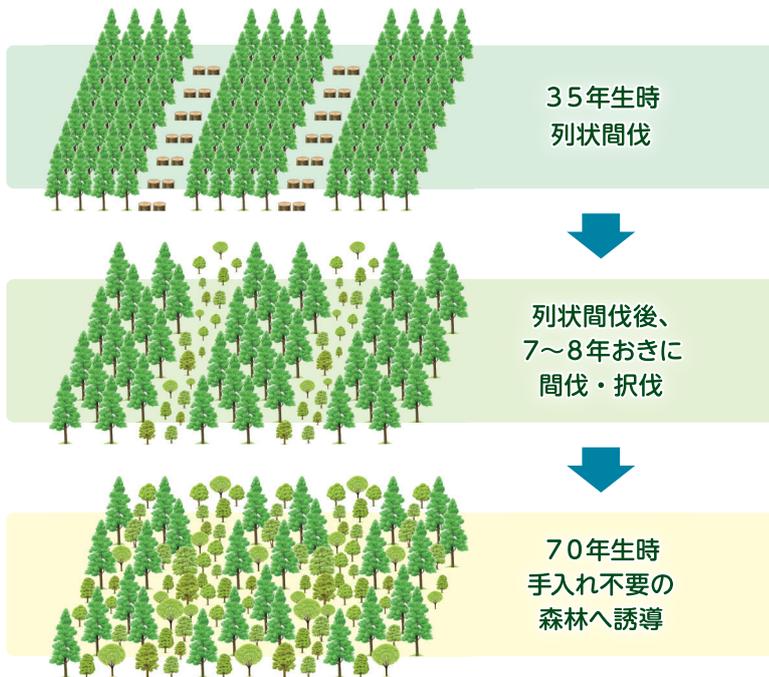


公社と森林の土地所有者との間で、分収造林契約を締結し、土地所有者が提供した土地に、公社が費用負担者となって、植栽、保育等の事業を行い、伐採時に得られた収益を、契約に定めた割合により分け合う仕組みとなっています。また、契約期間は当初50年としていましたが、公社改革に基づく針広混交林の造成を行うにあたり、70年に変更しました。

針広混交林



広大な面積の皆伐を回避し、森林の持つ公益的機能をより高度に持続的に発揮させるための非皆伐施業（択伐）へと転換し、間伐や択伐を繰り返し実施することにより、広葉樹の侵入を促進させ、環境保全に優れた針広混交林への誘導を図り、手入れの不要な森林に整備して所有者へ返還することとしています。



※針広混交林とは、【針葉樹と広葉樹で構成される森林】 樹齢、樹高も様々なもので構成されるため、強靱な根系を深く偏りなく網のように張りめぐらし、下層植生や落葉樹が豊かで土壌の崩壊や表面浸食を防ぐ機能が大きいです。

森林管理認証（FM 認証）



おかやまの森整備公社は、岡山県森林認証・認証材普及促進協議会に参加し、平成28年3月、一般社団法人緑の循環認証会議（SGEC）の森林管理認証（FM 認証）を取得しました。

【参考】森林認証制度

独立した第三者機関が一定の基準を基に、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林又は経営組織などを認証（FM 認証）し、それらの森林から生産された木材、木材製品にラベルを付ける（CoC 認証）ことにより、消費者の選択的な購買を通じて、持続可能な森林経営を支援する制度です。

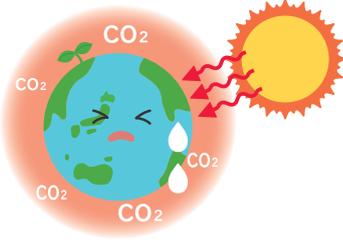
FM 認証：責任ある森林管理のために一定の基準をクリアした林業経営・森林管理に与えられる認証 [Forest Management (森林管理)]

CoC 認証：各流通の過程で、非認証製品が誤って混入することを防ぐために、認証製品を取り扱う加工業者や流通業者が取得する認証 [Chain of Custody (管理の連鎖)]



J-クレジット制度への取組み

地球温暖化・深刻な気候変動

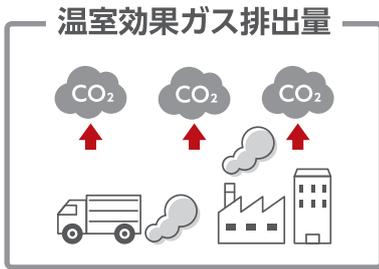


地球温暖化とは、地球全体の平均気温が長期的に上がる現象で、その背景には、温室効果ガス（二酸化炭素など）の増加も影響しています。

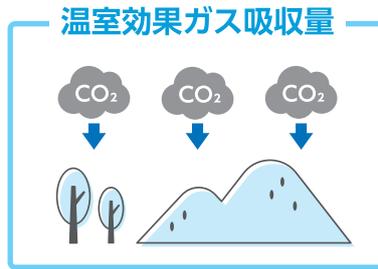
近年は世界各地で大雨・洪水・異常高温などさまざまな気象問題が発生しています。その要因の一つに、人間の活動にともなう温室効果ガス排出量の増加であると考えられています。そのため温室効果ガス排出量を削減する必要があり、カーボンニュートラルの重要性が高まっています。

カーボンニュートラル

： 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること



=



※日本の温室効果ガス削減目標
2030年…46%削減(2013年度比)
2050年…カーボンニュートラルの実現

J-クレジット制度とは

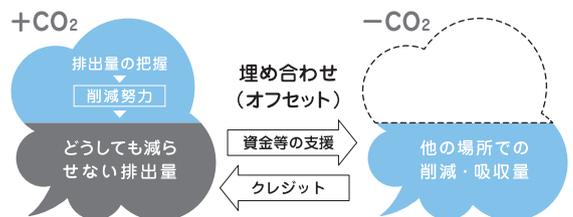
J-クレジット制度とは、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂の吸収量をクレジットとして国が認証する制度です。

J-クレジットのうち、森林由来クレジットとは、間伐などの森林の適切な管理を行うことによるCO₂吸収量をクレジットとして国が認証したものです。



カーボン・オフセットとは

カーボン・オフセットとは、企業活動や日常生活で排出される温室効果ガス（CO₂）について、自らの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行ったうえで、削減できない排出量を他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等（クレジット）を購入して埋め合わせるという考え方です。



(出典：平成26年度カーボン・オフセットレポート)

オフセットの流れ

排出量の算定

自らの活動の温室効果ガス排出活動を算定

削減努力

可能な限り排出削減努力

クレジット購入

削減できない排出量に相当するJ-クレジット購入

オフセット

オフセットの事務手続き

カーボン・オフセット事例



	活用事例	メリット	オフセット対象
企業活動	自社で消費する電気・ガス使用や通勤・出張により発生するCO ₂ をオフセット	自社のCSRとして地球温暖化防止に貢献でき、環境に配慮した企業であることをPRできる	<ul style="list-style-type: none"> オフィスや工場の照明や空調 職員の通勤社用車の使用 商品の製造・輸送
会議・イベント	講演会、コンサートやイベント会場での電気使用や主催者の移動により排出されるCO ₂ をオフセット	CO ₂ 排出量を抑え、環境に配慮したイベントの開催であることをPRできる	<ul style="list-style-type: none"> 会場で使用する電力 会場の設営・運営 参加者の移動
商品・サービス	製造の過程で排出されるCO ₂ をオフセットした商品等を販売・提供	環境に配慮した商品やサービスの提供であることをPRできる	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の調達や輸送 商品の製造や配達 顧客のサービス利用
クレジット付商品	商品やサービスにクレジットを付加して販売することにより、購入者のCO ₂ 排出量をオフセット	購入者の日常生活に伴う温室効果ガス排出量の埋め合わせを支援できる	<ul style="list-style-type: none"> 電化製品の利用 自家用車の利用 チケットの購入

	活用事例	メリット	目的に応じた取組
寄付型オフセット	製品・サービス等の消費者に対し、温暖化防止への貢献・資金提供等を目的として参加者を募り、決まった金額が集まったあとにクレジットを購入	サービス提供者と消費者がコミュニケーションを取りつつ、クレジットを活用できる	<ul style="list-style-type: none"> 商品に金額を設定 (1商品につき〇〇円など) 募金により集まった金額で購入 <p>商品に設定された寄付額 (売上の一部) → 目標額に到達 → 購入 → クレジット</p>

カーボン・オフセットの量



自家用車の移動	バスの移動	廃棄物の処理	バックホウ	ダンプトラック	現場事務所
<p>0.15 t-CO₂</p> <p>走行距離：1,000 km 燃費：15 km/ℓ(ガソリン) 排出係数：2.32 kg-CO₂/ℓ</p>	<p>0.51 t-CO₂</p> <p>走行距離：1,000 km 燃費：5 km/ℓ(軽油) 排出係数：2.58 kg-CO₂/ℓ</p>	<p>0.3 t-CO₂</p> <p>1,000 kgのごみを処理 排出係数：0.29 kg-CO₂/kg (一般廃棄物の場合)</p>	<p>2.1 t-CO₂</p> <p>20日間稼働 1日40ℓの軽油使用 排出係数：2.58 kg-CO₂/ℓ</p>	<p>2.6 t-CO₂</p> <p>20日間稼働 1日50ℓの軽油使用 排出係数：2.58 kg-CO₂/ℓ</p>	<p>7.2 t-CO₂</p> <p>1年間使用 10,111kwhの電力使用 排出係数：0.717 kg-CO₂/kwh</p>

公社J-クレジット



おかやまの森整備公社では、環境保全を重視した「針広混交林」への誘導を図るための適切な間伐など、健全で森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるための森林整備を通じて、CO₂吸収量を確保し地球温暖化対策に貢献するとともに、カーボン・オフセットによる販売収益を基に、さらなる森林整備の推進と林業活性化等を図ることとしております。



クレジット購入によるメリット



環境貢献企業としてのPR

- クレジット購入代金が森林整備事業に活用され環境貢献につながる
- 自社ホームページ等でクレジット購入実績を公表することで環境意識の高い企業であることをPR
- 公社ホームページを通じたPR

報告制度等での活用

- 温対法、SHIFT 事業、GX リーグにおける排出量実績報告等

製品・サービスの差別化

- 企業活動や商品の製造過程において排出される CO₂をオフセットすることで製品・サービスの差別化

購入費用の損金算入

- J-クレジットの価額に相当する金額を国等に対する寄附金の額として損金の額に算入

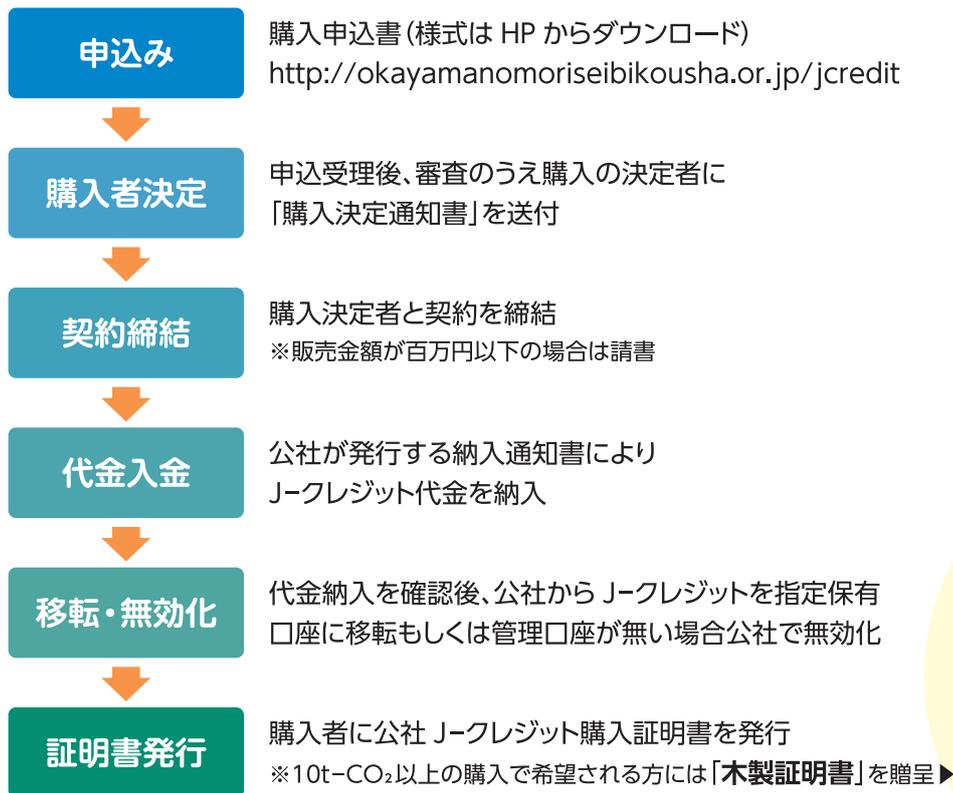
プロジェクト概要



プロジェクト名称	おかやまの森整備公社 森林管理プロジェクト
実施地域	岡山県内全域（岡山県の公社造林地）
方法論名称	森林経営活動
販売量 販売単価	公社HPをご覧ください http://okayamanomoriseibikousha.or.jp



販売の流れ



販売コーディネーターによる販売促進



販売促進コーディネーター

公社J-クレジットの販売について、CO₂排出削減を目的とする企業と公社の
マッチングを目的にコーディネーターを認定し、販売促進を行います。



株式会社中国銀行 地方創生SDGs推進部

〒700-8628
岡山市北区丸の内1-15-20



株式会社トマト銀行

〒700-0811
岡山市北区番町2-3-4



公益社団法人 おかやまの森整備公社

本 所 〒708-0013 津山市二宮 1849-2
TEL 0868-28-7744 FAX 0868-28-3760
J-クレジット担当窓口 TEL 0868-28-9066
mail:j-credit@okayamanomoriseibikousha.or.jp

岡山支所 〒703-8233 岡山市中区高屋 225-1
TEL 086-271-3726 FAX 086-271-3621

新見支所 〒718-8550 新見市高尾 2400
TEL 0867-72-5771 FAX 0867-71-0122